



BE THE INSPIRATION

国際ロータリー 第2570地区 第2グループ

志木ロータリークラブ

2018-19年度 国際ロータリー会長 バリー・ラシン 「BE THE INSPIRATION—インスピレーションになろう」

2018-19年度 第2570地区ガバナー 茂木 正 「想いを繋ぎ地域と国の発展に奉仕する」

2018-19年度 志木RC会長 林 康雄 「凜として挑む 一朵の目的を目指し」

第2283回 例会

2019-6-12

- ◎司会 高橋健一郎 副会長
- ◎点鐘 林 康雄 会長
- ◎ソング 我等の生業
- ◎ソングリーダー 星野 博之 会員
- ◎四つのテスト 星野 博之 会員
- ◎ゲスト 猪股 浩一様 (卓話者)
ソダリ・セール・バハドルさん
(米山奨学生)

「会長挨拶」

会長 林 康雄

本日は、会員の皆様へ2件の報告がございます。1件目は、「志木のまいにちこども食堂」に関する件です。例会に卓話者としてお招きした山下悦子氏が代表の「志木のまいにちこども食堂」へ6月6日(木)に榎本秀夫会員と訪問いたしました。食堂は志木市中宗岡4丁目のショッピングセンター宗岡に隣接する古いマンション1階の店舗の一室です。訪問した際には、山下氏と二組の子連れのお母さんがいらっしゃいました。早速、一升炊きの電気炊飯器を贈呈させていただきました。山下氏から感謝の言葉と「ロータリーさんは行動が早い」とお褒めの言葉を頂きました。こども食堂のブログに当日の様子が掲載されていることを報告致します。

2件目は、志木RCと志木柳瀬川RCとの合併に関する件です。両クラブの合併手続に関する進捗状況を報告いたします。5月19日(日)、地区研修協議会会場で、茂木正ガバナーから両クラブそれぞれのクラブの合併に関す



志木のまいにちこども食堂に炊飯器寄贈(※記事はP6)

るガバナー同意書に署名を頂きました。同日、茂木正ガバナー及び鈴木秀憲ガバナーエレクトへ合併に関する書類の写しをお渡ししました。5月20日(月)合併申請書その他を国際ロータリー日本事務局へ申請いたしました。6月7日(金)に国際ロータリー日本事務局へ架電し、進捗状況を確認したところ、次の回答を得ました。

両クラブの合併日は6月30日となっている。RI理事会の承認確定は7月以降になる。承認の内容は、「志木RCと志木柳瀬川RCは2019年6月30日付で合併し志木RCとなることを承認する。」という趣旨の文言で7月にRI理事会より承認状が交付される予定である。承認されない場合もあり得るのかと質問したところ、承認されないことは、今まで同様のケースでは皆無である。しかし、現時点で100%承認されると断言はできない。承認が7月に確定したとして、「合併日は6月30

日と理解してよいか」の問いには、その通りと回答がありました。7月1日以降承認日までの志木柳瀬川 RC へ人頭分担金は発生するののかとの質問に対しては、「それはありません」と回答されました。なお、合併により、志木柳瀬川 RC から志木 RC へ編入することになるのは、深澤好文（司法書士）・荻野光一（税理士）・坂間智子（不動産賃貸業）・醍醐治江（ホテル業）の4名になります。

最近ネット検索で、「ロータリーこぼれ話」という少しウイットに富んだ随筆を発見しました。その中に、「一目で分かる本物のロータリアンの見分け方」についての記述がありましたので紹介します。筆者は新潟 RC のパスト会長であり 41 年間に亘り国立大学で医学教育に携わった山本正治氏です。氏は約 3500 名もの卒業生を送りだし地域社会で臨床医として日々活躍する医師を生み出してきました。そんな山本氏は、学生が地域住民の期待に沿って活躍できる医師になるか一目で見分けることが出来るそうです。入学試験の成績や卒業時の席次で彼等の将来は予測できないが、在学時代にきちんと挨拶ができる学生は卒業後も地域社会で活躍する医師となっているそうです。そんな山本氏が、地域社会が期待する本物のロータリアンを見分ける方法を紹介しています。そこで皆さんに問題です。

本物のロータリアンかどうか一目で分かる人は、次のどれでしょうか。

- (1) ロータリーバッジをいつも付けている人
- (2) R 財団に高額な寄付をしている人
- (3) 本来の仕事を優先し、例会に出席できなかった時にはメイクアップをする人
- (4) 財団寄付などを「集める」と言わず、「いただく」と言う人
- (5) ロータリアン同士で仕事上の相談や飲み会をしている人

どれが本物のロータリアンの見分け方でしょうか。山本パスト会長はいずれも正解としたいが、自分が選ぶ正解は(4)だとしています。その理由として、ロータリアンは本来、“自分

のお金”で地域社会へ奉仕すべきと思うからだそうです。寄付を「いただく」と言える人は、ロータリアンとしての“立ち位置”をわきまえた人です。かつて、山本氏は地区の財団委員会で「寄付をもっと集めなければ地区財団活動はできない。」と発言したことがあったそうです。その時、「財団寄付は集めるのではなく、いただくものである」と山本氏を諷めたガバナーがいたそうです。寄付活動を「集める」と言ってしまう人は、上から目線と誤解されるのではないかと。「財団寄付などは集めるのではなく、いただくものである」「いただく」と自然に言える人は「一目で分かる本物のロータリアン」だとされています。

(山本正治著「ロータリーこぼれ話」から引用)

「理事会報告」(6/5開催分) 会長 林 康雄

1. 2020～2021 年度 R 財団奨学候補生カウンセラーの件
⇒宮原俊介会員をカウンセラーに選任
2. 来日青少年交換学生カウンセラーの件
⇒西川和人会員をカウンセラーに選任
3. こども食堂へ一升炊き炊飯器寄贈の件
⇒承認。支出はスマイル特別会計から
4. 親睦旅行の追加負担金の件
⇒参加者から追加徴収し、他は職業奉仕残予算及び親睦予算から補充
5. 柳瀬川 RC 合併関連の件
⇒最終例会に志木柳瀬川 RC をビジター扱いで招待する。登録料は会員と同じ

「奨学金授与」 会長 林 康雄

林会長より米山奨学生ソダリさんに奨学金。ソダリさんから近況報告と挨拶がありました。

「『ロータリーの友』記事紹介」

雑誌委員会 委員 田中幸彦

『ロータリーの友』6月号記事紹介

横組 P4～15 特集・クラブ「広報力」

私たちクラブの活動を広く地域の人に知ってもらうには、具体的に何をどうしたらいい

のか、広告と広報の違い、知ってもらうためのポイント、コツ、そして広報ツール等が掲載されています。ロータリーが地域で理解され、信頼関係を築き、最終的に会員増強・拡大につなげていくには、私たちのことをもっと知ってもらう努力が必要と記載されています。



〓 P16~19 2019年規定審議会報告

いくつかの立法案が採択された結果、どのように RC は進めばよいのか、いくつかの注目すべき案件が掲載されています。ロータリーアクトクラブに RI 加盟を認める件、人頭分担金を増額する件、欠席のメイクアップに関する規定を改正する件、クラブの構成を改正し、職業分類の制限を廃止する件、等々です。

〓 P36 エバンストン便り

インドのスシル・グプタ氏が健康上の理由で会長ノミネーを辞任したことに伴い、2020-21年度 RI 会長にドイツのホルガー・クナーク氏が選出された報告記事が掲載されています。

縦組 P 4~8 「サッカーで見る世界観」

日本人として初めて、プロサッカー選手として、海外でプレーをした人物で、現在、横浜 FC 会長である奥寺康彦氏が第 2780 地区第 1 グループ IM での特別講演をされた時の講演要旨です。

〓 P9~12 「クラブを訪ねて」 長泉ロータリークラブ

「クラブを訪ねて」はこの号をもって終了となります。最後は、米山梅吉記念館がある静岡県長泉ロータリークラブの紹介です。

〓 P14 友愛の広場 「新しい時代への意識改革」(福井西 中村敏雄)

日本のロータリーは 2020 年 10 月に創立 100 年の大きな節目を迎えます。これからの社会情勢の変化の中で、新時代のロータリークラブがさらに必要とされ、発展していくために、私たち一人一人がロータリアンとして、

意識改革をしていかなければならないと投稿されています。

「卓話者紹介」

尾崎征男会員



「卓話」

「朝霞地区福祉会の概要と

志木ロータリークラブとの関わり」

朝霞地区福祉会 猪股浩一様

本日はお招きいただきありがとうございます。志木ロータリークラブ様には常日頃より当法人に多大なるご協力を賜りまして感謝申し上げます。

(中略) 私は朝霞地区福祉会には平成 4 年からお世話になっております。今年で 27 年目を迎えました。27 年の間に、障害児通園、成人通所、特別養護老人ホームと、多くの利用者の方々と過ごしてきました。

本日は、朝霞地区福祉会の概要、地域の方々との関わりについてお話ししたいと思います。

1. 朝霞地区福祉会の概要について

朝霞地区福祉会は、朝霞・志木・和光市に保育園 2 カ所、児童発達支援施設(みつばすみれ学園)、生活介護事業所(すずらん)、介護老人福祉施設(朝光苑)を運営しています。

昭和 50 年 4 月に事業開始し、今年で 44 年を迎えました。昭和 50 年 3 月、法人認可、同年 4 月 1 日、事業を開始しました。みつばすみれ学園の誕生です。現在は、「みつばすみれ」とひとつの名称ですが、開設時は、「みつば学園」(精神薄弱児通園施設)と「すみれ学園」(肢体不自由児通園施設)の二つの施設でした。

例会は変更になる場合があります。ご確認下さい。

■新座 RC (木) 12:30~13:30 ベルセゾン

■和光 RC (月) 12:30~

郵便事業(株)和光支店3F

第2グループ各RC 例会日・会場一覧

事務局 048-473-7041

事務局 048-465-0088

2283-3◇

志木 RC 会報

その後、昭和 58 年、和光市より「和光市本町保育園」の受託運営を開始しました。続いて昭和 61 年、朝霞市より「朝光苑」（特別養護老人ホーム）の受託運営を開始しました。続いて、平成 6 年に、「みつば学園」と「すみれ学園」が「みつばすみれ学園」に統合し、知的障害児通園施設として、肢体不自由児の通園を開始しました。

平成 9 年、園舎の建て替えに合わせ、現在の複合施設の建設に着手。「みつばすみれ学園」は仮園舎へ移転しました。現在のわくわくドーム近くの川沿いです。そして平成 10 年 10 月に現園舎（複合施設）が完成し、新園舎へ移転しました。明けて平成 11 年 4 月、（当時は知的障害者通所更生施設）「すずらん」が開所し、「みつばすみれ学園」との複合施設として運営を開始しました。平成 13 年（2001）4 月からは「和光市にいくら保育園」の受託運営を開始しました。

2003 年、福祉に関係する制度は、これまでの行政による措置の時代から、サービスを利用する側（利用者）と、サービスを提供する側（施設）と言う利用契約制度の時代になりました。今後も社会の移り変わりとともに大きな転換期があることでしょう。このように朝霞地区福祉会は昭和、平成から、令和と三時代を朝霞地区の福祉サービスを提供してきました。今後も地域の方が必要な時に利用できる施設を運営していきます。

2. 「みつばすみれ学園・すずらん」概要

すみれ学園。開設は昭和 50 年（1975）。今年で 44 年を迎えました。志木ロータリークラブ様とは、昭和 50 年の開設時に植樹とベンチを寄贈いただいたとのこと。

朝霞・志木・和光市在住の就学前の支援が必要なお子さんが、保護者と共に通園利用しています。6 月 1 日現在、100 名近いお子さんの利用登録があります。療育方針として、「一人ひとりの子どもに合わせた、また、家庭生活・社会生活が営みやすくなるような、

療育支援の提供を行う」と掲げています。個々が持った違いを受け入れ、個々の育ちを大切に療育を行います。

つづいて、生活介護施設「すずらん」の概要です。すずらんも、朝霞・志木・和光 3 市在住の大人の方（18 歳以上）が日々通所して日中活動を行う生活介護事業所です。平成 11 年に開所し、今年度は 20 周年を迎えました。

「すずらん」の目標は、「一人ひとりが輝ける瞬間があり、役割期待のある活動を展開していくこと」を大切に考えています。大切なのは、人としての「存在感」がもてるよう、常に「良いところ探し」と「認める・認められる」「誉める・誉められること」の中で、やる気の引き出しを図り、さまざまな経験・関わりを通じて、職員は「相手（利用者）の立場に立ってみる」ということを大切にしたい支援の展開を目指しています。現在、58 名の利用登録があります。

3. 地域との関わり・志木ロータリークラブ・ボランティア

冒頭でお話しした通り、「みつばすみれ学園」は 44 年前に現在地、志木市下宗岡 1-23-1 に誕生しました。開設から今までの間、幸いに地域の方と大きなトラブルもなく、今まで下宗岡で事業運営が続けられています。

最近、話題になりましたが、東京のある場所で児童相談所が建設されることになったという話に住民が反対している、という話。児童相談所ができることに反対！です。その話を聞くと、（児相と施設の違いはありますが、）地域と福祉施設の関係について考えさせられるニュースでした。近隣地域の理解あって今の福祉会があるということです。感謝です。

施設と地域、ボランティアのつながり

朝霞地区福祉会の各施設は、開設以来、地域やボランティアの方々との関わりを通して、さまざまな交流、行事を行っています。個人でコツコツと定期的に通って下さる方、また、グループで来てくれるの方々など、活動の仕方

はさまざまですが、どの活動も施設にとって大きな力となっています。

「みつばすみれ学園」ですが、個人ボランティアでは、付き添い児（乳児）の保育ボランティアさんが今、毎週4人、装飾作りのお手伝いが毎週2人、プランターの手入れが不定期に1人、など個人ボランティアが定期的に来てくださっています。特に乳児、赤ちゃんの子守はまさにおんぶにだっこ状態で、お母さん方からは「ほんとうに助かる」と、なくてはならない存在です。

また、団体では夏祭りの志木ロータリークラブ様、志木市の日赤奉仕団、北部民生委員・児童委員、細田学園などの団体があります。運動会には本田労組の青年部が毎年会場設営から競技運営など多くの場面に力を貸して下さっています。

成人施設「すずらん」では、畑作業のお手伝い、組みひも体験、茶道などご自身の得意分野を活かした分野でのボランティア活動をしていただいています。

老人ホームでは、利用者の洗濯物たたみ、車いすのパンク修理など、職員の補助的なことを定期的に手伝ってくださる方がいます。職員がなかなか時間を割けないことにお手伝いいただき、施設はとても助かっています。

志木ロータリークラブとのつながり

さて、志木ロータリークラブ様との関わりについてですが、昨年、志木ロータリークラブ様から、夏祭りに関わるようになった経緯をお尋ねされ、調べる機会がありました。

自分の入職した27年前には夏祭りにはすでに志木ロータリークラブ様がお手伝いくださっていたので、更に遡らなければわからなく、私より前の職員にも聞いてみましたが、明確なきっかけはわかりませんでした。

みつばすみれ学園が誕生した昭和50年、ロータリークラブに関する寄付の記録によると、植樹とベンチの寄贈がありました。昭和50年当時の園庭は広く、桜の木もあり、桜の

花の下、食事(弁当)を食べた記憶があります。その後、昭和51年から56年にかけて、テント、マッサージ機等、寄贈の記録があります。そして、昭和56年、志木ロータリークラブ第10代会長、藤喜三郎会長の時代に、みつばすみれ学園納涼盆踊りの記録があります。

みつばすみれ学園の広報紙・学園だよりを昭和54年(1979)4月から発行していますが、夏祭りについて記事を探したところ、昭和56年9月号に記事が載っていました。

「8月1日(土)はれ、風ややあり、午後6時から2年ぶりで復活した学園盆踊り大会が志木ロータリークラブのご奉仕、ご協賛で華やかに幕を開けました。手作りのお店屋さん(お面、髪飾り)がいくつか立ち並び、本格的な大櫓(やぐら)からは大太鼓の音が景気よく響く…」と記事がありました。

翌年8月31日発行の学園だよりには、開会寸前にわか雨におそわれて、急に園舎内でやることになりましたが、結果的に盛り上がった。それにしてもロータリーの方々や地域の方は汗だくでした。という結果だったようです。他にも中野お囃子連の里神楽のはやしに合わせて踊り出すひょっとこ、など、地域の方が関わっている様子が伝わってきます。

開設当初からのご寄付をきっかけに、「なにか協力できることはありませんか？」という形でお声を掛けてくださったのでは。そしてそういう形で夏祭りのご協力が始まり、今に続いているのだと思います。

今は、障害のある方も、子どもも大人も地域で生活する時代です。学園児、すずらん利用者も地元のお祭りに行きたいこともあると思います。しかし、経験の無さや、人混みが苦手、車椅子では行けない、などの理由で地



域のお祭りに行けない方もいます。

しかし、学園の夏祭りなら、知っている場所なので行ってみよう。盆踊りの練習もやった。すずらんでは自分たちの制作品をお客さんに見てもらおう。など、行きたい気持ちがあれば、誰でも参加できます。

その利用者の気持ちを大切に、お祭りや大きな行事を続けています。

行事を手伝ってくださるボランティアの方々の存在は、利用者が行事参加へ前向きになれる大きな原動力です。志木ロータリークラブがお手伝いしてくださる夏まつりは、法人施設の行事で一番規模の大きい行事となりました。

これからも多くの行事、活動のなかで、地域の方の協力をお願いすることがあると思います。今年も複合施設の夏祭りがあります。

法人各施設、地域の方々のご協力に感謝することを忘れずに、これからも地域の方々が必要とするサービスを提供していきたいと思えます。

「こども食堂へ炊飯器寄贈」

去る5月29日の例会で、卓話者の「志木のまいにちこども食堂」食堂長山下悦子さんから、一升炊きの炊飯器が壊れてしまい大変困っていることとお話しされました。そのことに対し、地元の志木ロータリークラブとしても何か援助をして行くべきではないかという思いを抱いた林会長から、その件について理事会の議題として上程され、志木ロータリークラブから炊飯器を寄贈することが決定されました。理事会の翌日、6月6日に林会長から山下食堂長に一升炊きの炊飯器を手渡しました。

(記事・榎本秀夫会員)

●出席報告 出席向上委員長 高野邦夫

会員数43名 出席義務者35名 免除者8名

本日出席	本日欠席	本日出席率
31名	7名	81.58%

前々回 MU (4名中1名)	前々回修正出席率	平均出席率
	94.74%	94.29%